

**JASDAQ**

平成 21 年 11 月 10 日

各 位

会社名 内外テック株式会社
 代表者名 代表取締役社長 権田 浩一
 (JASDAQ・コード3374)
 問合せ先 取締役 管理部長 米澤 秀記
 電 話 03-5433-1123 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 5 月 15 日に公表した平成 22 年 3 月期 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日) の第 2 四半期累計期間ならびに通期業績予想(連結・個別)を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位：百万円)

平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日 ～ 平成 21 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,700	△135	△154	△159	△32.67
今回発表予想 (B)	3,867	△226	△239	△187	△38.43
増減額 (B - A)	△833	△91	△85	△28	
増減率 (%)	△17.7	—	—	—	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	8,386	△126	△145	△165	△32.58

平成 22 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日 ～ 平成 22 年 3 月 31 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	11,600	95	55	45	9.25
今回発表予想 (B)	10,000	△172	△197	△150	△30.82
増減額 (B - A)	△1,600	△267	△252	△195	
増減率 (%)	△13.8	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成 21 年 3 月期)	13,736	△372	△411	△1,156	△230.71

平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日 ～ 平成 21 年 9 月 30 日)

	売 上 高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,000	△135	△144	△147	△30.21
今回発表予想 (B)	3,306	△208	△214	△219	△45.00
増減額 (B - A)	△694	△73	△70	△72	
増減率 (%)	△17.3	—	—	—	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	7,274	△33	△23	△144	△28.51

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,300	45	23	16	3.29
今回発表予想(B)	8,700	△197	△209	△216	△44.39
増減額(B-A)	△1,600	△242	△232	△232	
増減率(%)	△15.5	-	-	-	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	11,823	△230	△217	△723	△144.42

修正の理由

① 第2四半期連結累計期間の連結業績予想

当第2四半期連結累計期間につきましては、世界同時不況による景気後退も一部で底入れの兆しが見られ始め、半導体デバイスの需要も回復基調となりましたが、価格低迷や大幅な在庫調整等の影響により、半導体メーカーの設備投資が抑制・削減される状況が続いたため、当社グループにおいても極めて厳しい事業環境となり、売上高は前回発表を8億33百万円下回る38億67百万円となる見込であります。

また、損益面では、原価改善および固定費の圧縮等を進めてまいりましたが、売上高の減少による収益減少を補えず、営業損益は2億26百万円の損失(前回発表比91百万円減)となり、さらに、営業損失の計上により経常損益は2億39百万円の損失(前回発表比85百万円減)となる見込であります。なお、四半期純損益につきましては、特別利益に役員退職慰労未払金戻入益53百万円を計上したため、四半期純損失1億87百万円(前回発表比28百万円減)となる見込であります。

② 第2四半期累計期間の個別業績予想

当第2四半期累計期間の個別経営環境につきましても、前項第2四半期連結累計期間の連結業績予想の記載と同様の内容となり、売上高は前回発表を6億94百万円下回る33億6百万円となる見込であります。また、損益面では、原価改善および固定費の圧縮等を進めてまいりましたが、売上高の減少による収益減少を補えず、営業損益は2億8百万円の損失(前回発表比73百万円減)となり、さらに、営業損失の計上により経常損益は2億14百万円の損失(前回発表比70百万円減)となる見込であります。なお、四半期純損益につきましては、四半期純損失2億19百万円(前回発表比72百万円減)となる見込であります。

③ 通期の連結ならびに個別業績予想

第3四半期以降の経営環境につきましては、景気好転の影響が期待されますが、国内および世界経済の不透明感が払拭されないこともあり、半導体業界や半導体製造装置業界におきましては、本格的な回復までには時間がかかることが予想されるため、上記のとおり通期業績を修正することといたしました。

以上の理由により、平成22年3月期第2四半期累計期間ならびに通期業績予想(連結・個別)を上記のとおり修正することといたしました。

引き続き、より一層の原価改善ならびに固定費の圧縮等を進めるとともに、対処すべき課題に対する重点施策の実施により業績の回復を目指してまいります。

なお、平成22年3月期配当予想の変更はございません。

※ 業績予想に関する留意事項

本資料の業績予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって、上記予想数値と異なる場合があります。

以上